

はじめに

現在、霞ヶ浦では、その管理者である行政機関とNPOとの協働により、湖岸植生帯の再生の試みが実施されつつあります。その試みは、生物多様性の保全という、極めて重要な目的を有すると同時に、湖岸景観の再生を目的として含むものです。

自然環境や景観の再生という協働行為においては、その目標を共有することが必要となります。しかし、目標を具体的に示すことは、かならずしも容易ではありません。

“古き良き霞ヶ浦”といえ、響きは良く誰もが賛同するところですが、実際にはそれぞれが異なるイメージを有しているとしても不思議ではありません。特に景観の評価に関しては、自然景観に加え、人の営みにより形成された人為景観、あるいは代償的な植生景観が、多くの人々に好まれることに留意しなくてはなりません。

本資料では、高度経済成長期を迎える以前の年代、昭和40年以前の霞ヶ浦の景観を記録した写真や絵画を収録しました。この資料が、“古き良き霞ヶ浦”を考えるための資料として活用されることを期待するものです。

本資料に収録した資料の収集に際しては、霞ヶ浦近郊の多くの自治体の教育委員会、図書館、資料館、そして管理者である霞ヶ浦工事事務所の協力を得ました。個々の機関の名称については本文に記載させていただきました。皆様のご協力に厚く御礼申し上げます。また、資料の収集作業については、(株)プランニングネットワークの協力を頂きました。関係各位のご尽力に感謝します。

平成15年3月

緑化生態研究室長 藤原 宣夫